
愛逢傘

いわし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛逢傘

【コード】

N7192B

【作者名】

いわし

【あらすじ】

天気予報は必ず見るようにしないと最悪な事になりますよ。でも、たまに見ないのもいいかもね。

水溜まり

なんのへんてつもない水溜まり

昨日の雨で出来た水溜まり？

昨日は雨なんか降ってない

今降ってる雨で更に大きくしようど努力してるわけです

そんな水溜まりの成長をパン屋の屋根の下黙って見てました

家に着くまでは後20分はかかる

天気予報なんてもちろんみてない

雨は止みそうだが止まなそう

どうしよう

じゆじゆび

もう30分位考えてる

さっきの水溜まり

横のちっちゃいのとくっつきゃあ

あと5センチ

2センチ

1センチ

.....

前に現れた人のせいでくつつく瞬間が見れなかった

こんなちっぽけな事なのになんだかイライラしてた

ビショビショになって帰る事を決意しその場を立ち去ろうとする僕
を君は止めた

君はそつと傘を差し出た

僕は意味を知ってたけどあえて知らないふりして首を傾げた

だって恥ずかしいし

そんな僕の手をとり1つの傘のした歩き出す2つの足跡

僕は何かしゃべったほうがいいのか それとも

黙っていたほうがいいのか

一人で闘ってたんだよ

君に近づく事は出来ないし

僕の肩ずぶぬれだし

こうなるなら早く帰っておけばよかった

じいじおや

じいじおや

君はそっと僕の腕をとって近くに寄せた

ህዳር ፳፻፲፱

ህዳር ፳፻፲፱

.....

じじい

「じい」

とっさに言った僕の言葉に君は下を向きながらふっと笑みを溢した

君は黙って傘を閉じ空を見上げていた

雨は上がっていた

虹

僕はいてもたつてもいられず急いで走って帰った

君はその時も確に微笑んでいた

君の傘持って帰ってきちゃった

また会える

水溜まりに反射する虹は

とてもとても大きく見えた

e
n
d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7192b/>

愛逢傘

2011年1月9日15時29分発行